



政権のもくろみを潰そう！

熱気溢れる国会周辺

一度は安倍政権に自分の怒りを直接ぶつきたいと6月24日、「とめよう！戦争法案 集まろう国会へ 6・24国会包囲行動」に自主参加した。

座り込みをしている第1衆議院
会館前に午前10時前に到着した。
道路にはすでに多くの労組員や市
民が300メートル以上にわたっ
て座り込んでいた。10時からのコ
ールをリードするのは20代の女性で
「戦争法案今すぐ廃案!」「安倍
政権は今すぐ退陣!」など、全員
が議事堂方向に向かって大声でコ
ールした。この後は議員や市民団
体のアピールがあり、このパター
ンで夕方までに3回繰り返された。



国会行動参加者には、馬場前大阪支部委員長や地域ユニオンのメンバーなど、少なくない数の大阪からの参加者もいた。

本集会までの間に参加した半田
滋氏（東京新聞論説委員）の講演
会では、同氏は「安倍総理は２回
に分けて改憲の国民投票を行う計
画。２回目の2018年の国民投票で

憲法9条を改訂しようとしている」と安倍政権の本質的狙いを解説した。

3万人の市民と労働者が結集

集会開始 1 時間前の午後 5 時半過ぎ、すでに永田町周辺には舗道上から人があふれていた。人波をかき分けてやっとのことで議事堂正門前付近に着いた。この頃には、結集した市民は3万人にも膨れ上がっていた。



間もなく開会された集会には、社民、共産両党は全議員が揃い、民主や生活の党も多数の議員が駆けつけていた。作家の澤地久枝さん、雨宮^{かりん}処凛さんや評論家の佐高信さんらが、“戦争法案”の違憲性や安倍内閣の不当性などを口々に糾弾した。

「戦争立法」に反対する集会

27日には東京都渋谷のハチ公前で、学生らが作っている「SEALDS（シールズ）」が主催した集会に、若者たち6千人が集い、超党派の国会議員も参加した。

戦争立法に反対する若者らの切実な訴えは多くの歩行者の足を引き止め、土曜の渋谷駅前には聴衆で埋め尽くされた。

集会に参加した女性は「70年間
言われ続けた、戦争の恐ろしさを
伝える言葉たちに、新鮮を感じ
なくなっないがして蔑ろにするようになって
いませんか。この国の平和と国民
の命を守るために、友人やその
また友人が戦地で傷つくことに私
は耐えられません。憎悪の連鎖を
私たち自身が止めましょう。過ち
は繰り返さないと、70年前の犠牲
者に私たちは誓ったはずです。私
たちなら止められる。私たちが止
めるんです」と強い意志で訴えた。



全国各地で運動を起こそう！

自民党が参考人招致した憲法学者3人全員が、「安保法制は憲法違反」と明言してから、潮目は変わりつつある。安保法制を急いで成立させる必要はないとする人々も急増している。しかし、かつて

の60年安保時も、デモ隊が正門を突破するほどの大きなうねりを見せたが、当時の岸信介総理（安倍の叔父）は強行採決した。安保改定よりもはるかに悪質な戦争法案

を廃案にするには、もっと大きな闘いが必要である。

全国各地で、どんな小さな規模でもいいので、戦争法案を廃案にするための創意工夫した運動を起

こし、発展させ、安倍政権の“改憲”のもくろみを潰そう！

（ユニオンおおさか 平石 昇）



労働者差別・戦争挑発、直ちに止めろ

日韓民主労働者連帯

萩原 亥王（大正埠頭）



全羅北道地方検察庁前にて

1989年のアジアスワニー日本遠征闘争から始まった日韓の労働者交流が今年で25周年、また、戦後70年（韓国では光復70周年）、日韓国交正常化50年の年でもある今年、日韓民主労働者連帯の6名が6月10～14日、「春の課題別交流定期訪韓団」として、民主労総の仲間と交流を深めてきました。

25年間継続してきた労働者交流の立場から、「日韓労働者の共同宣言」を、安倍政権の戦後70年談話に先駆けて発表することとなりました。

右の「宣言文」は、今回の訪韓メンバーを中心に日韓労働者交流を共有する仲間と数回にわたり議論を重ねて創ったものです。

この発表に際し、6月11日午前10時30分から、全羅北道検察庁の前で民主労総全北地域本部と日韓民主労働者連帯による共同記者会見を行いました。

冒頭、全北地域本部イ・チャンソク事務局長より趣旨説明が、続いてユン・ジョンガン本部長のあいさつが行われました。

続いて「韓・日労働者の平和平等の宣言」が始められ、日本側からは「労働者の『草の根交流』宣言」を、韓国側民主労総全北本部からは、「平和・平等の宣言」を、双方が読み上げて、誓い合いました。

労働者の「草の根交流」宣言

第2次世界大戦の終戦から70年を迎える今年は、韓・日国交正常化から50年でもある。にもかかわらず韓・日両国の間には未だに解決していない懸案として「歴史認識問題」や「領土問題」がある。しかし労働者同士の交流においては、こういった「両国間の諸問題」は何ら障害にはならない。

25年前、アジアスワニー闘争を共に闘うことから始まった労働者の交流は、現在も途切れることなく継続し発展している。私たちはこの間の労働者交流を通じて多くの事実を知った。

西大門の独立記念館では日本帝国主義の侵略がどのように行われたか、日本大使館での定期水曜デモと「戦争と女性の人権博物館」では日本軍の性奴隷として拉致された女性たちの口惜しさと苦しみを、全羅道の各地に今も残る日帝の侵略の痕跡からは日帝の野蛮さと貪欲を……。

しかし、私たちはそのような場所で私たちを非難する声を聞いたことは一度もない。いや、むしろ温かく歓迎された記憶があるだけだ。それはなぜか？ これらの事実が戦争という、人間しか行わない愚かな行為が生んだ悲劇であることを私たちは互いに良く理解しているからだ。

戦争を創り出すのは、飽くことを知らない貪欲に魂を奪われた資本家と資本家の走狗と化した政治家たちである。私たちは互いの交流を通じて日本でも韓国でも、一所懸命生きている人間が額に汗する労働者が圧倒的多数であることを知った。韓・日両国の資本家と権力者は構造改革路線の名のもとに規制緩和を推し進め、1%の金持ちの貪欲のために労働力を買い叩こうとしている。彼らが私たち労働者の共通の敵であることは明白だ。私たち労働者は国境を越えて連帯し、グローバルな搾取を進める勢力を追放し、人が人らしく労働者が労働者らしく生きていける社会を創り出さなければならない。

この間、私たちは相互訪問を繰り返し闘争現場を訪れ仲間を苦しめる資本家には一緒に抗議し一緒に汗と涙を流し闘争に勝利すれば一緒に喜びを分かち合ってきた。私たちはこの間積み重ねてきたこうした「お互いの顔と顔が見える」草の根交流を私たちの共通の誇りとし、大事に育てていくことを約束する。

私たちは人が人らしく生きていける未来を実現するために、その礎となる労働者の「草の根交流」を今後より一層強固なものにするために互いに奮闘することを宣言する。

2015年6月11日

全国民主労働組合総連盟 全北本部
日韓民主労働者連帯

2015支部団結学校

基本を大切にした講義

教宣部 日高昌幸

6月28日(日)午前9時30分から、港湾福祉第1センターにおいて、教宣部主催で、9分会及び執行部・講師・教宣部員の全29名が参加して恒例の“団結学校”が開催されました。

林書記長による開会あいさつの後、参加者の自己紹介で、全員が氏名、分会名、自分の仕事の簡単な説明が行われました。

全港湾の歴史

最初の講義は「全港湾の歴史」。講師の山元委員長が、地域の労働者をご逝去されたので、急きょ欠席になり、「労働と人権サポートセンター・大阪」の事務局次長・元大阪支部委員長の馬場徳夫さんに、第1講座の講師をしていただきました。



内容は、かつての港湾日雇労働者が、タコ部屋に押し込まれて、やくざ会社からピンはねされていた労働・生活に不満をもち、組合結成→ストライキなどの闘い→労働条件の飛躍的改善とやくざの追放を勝ち取ったこと。それ以前か

ら立ち上がっていた常用労働者と共に全国的に団結し、全国での組織化を実現した＝全港湾の結成から、港湾労働法の制定、港湾年金の獲得、様々な争議などのお話を



されました。また、大阪では、全港湾中央の基本方針である「一港一社」に向けて、1977年、沿岸南、沿岸東、車両、木材、石炭の5支部が統合して大阪支部が発足したことなど、あるいは、「大衆路線」とは何かなどについて話されました。

労働組合と労基法

★★★★★★★★★★★★★★★★

第2講義も引き続き、馬場さんに講義していただきました。

馬場さんは、憲法28条で労働者の「団結権」「団体交渉権」「団体行動権」など3権が保障されていること。労働3法の中でも「労働組合法」では、労働組合の経営者からの自立を謳い、労使対等の原則及び経営者の「組合つぶし」を禁止していることを話されました。そして、一人で組合は作れないが、一人でも組合員がいれば団

体交渉権があることや整理解雇の4要件、不当労働行為など、広範囲に亘る講義と、最後にワークルール検定の初級問題を、クイズ形式で答えておりました。

労働組合の活動

★★★★★★★★★★★★★★★★

午後からの第3講義は、大正埠頭分会副分会長で、ユニオンおおさかの副委員長でもある吉本賢一さんの講義でした。吉本さんは、自らの組合との縁を話され、続いて吉本さんが現在、担当しているユニオンおおさかの「TOP資源」の争議など、講義テーマの「労働組合活動」に絡めて話しました。



労働者は法律で守られていても、自ら学習・行動しなければ何も改善しない！活動の中心を職場の仲間、組合員とのコミュニケーションに置くことが、私たちに求められている組合活動の在り方であるとの内容でした。

その後、各専門部活動の紹介が行われ、最後に樋口副委員長のまとめのあいさつと、「団結ガンバロー」で締めくくられました。

団結学校といえ、新入組合員のための行事と思われるかもしれませんが、中堅・ベテランの組合員も、十分、勉強になるので、来年以降も、多くの組合員が参加されるよう、呼びかけるものです。

青年部 だより

肌で感じて、声を聞いた

青年部事務局長 山本 武司

支部青年部は、反戦・反核・平和と民主主義を守る取り組みを基本的運動方針にしています。

中でも、私は沖縄の基地問題に特に関心がありました。現在、安倍政権が辺野古新基地建設を強引に推し進め、国会では戦争のできる安保法案を成立させようとしている状況の中、自分も立ち向かっていきたいと思い、南大阪の現地学習会に参加しました。



1日目は、高江ヘリパッド建設反対闘争現地に行きました。いつもの座り込みはしておらず、残念に思いました。しかし、以前にビデオで見たとおりの緑豊かで美しい現地と、そこで闘う方の怒りの声を聞く事ができ、感激しました。

その後は辺野古キャンプシュワブゲート座り込み現場に移動しましたが、ここでもその日の座り込みが終了しており、実体験はでき

ませんでした。



2日目は、道の駅「嘉手納」から嘉手納基地を見学しました。見渡す限り続く米軍基地を目の当たりにし、その基地の広さに驚きました。戦闘機が飛び立つところも見ることができ、距離は離れていましたが騒音の凄まじさに驚きました。



チビチリガマには、普段は入ることはできないのですが、今回、特別に入れて、沖縄戦当時のまま保存されている姿を見ました。同時に、この暗い豪における「集団自決」の悲惨さを体感しました。

読谷村役場では「憲法九条の碑」を見学、沖縄国際大学では米軍ヘリ墜落現場を見学、嘉数高台公園展望台からは普天間基地を見学しました。



3日目は、ひめゆりの塔、平和祈念資料館、魂魄の塔、南風原文化センターに行き、沖縄戦での悲惨さを痛感させられました。

今回、闘争現場や戦跡地を巡り、自分の目で見て、肌で感じて、生の声を聞いて、本当に貴重な経験ができたと思います。特に基地問題では、現地に行き、現場の様子と闘う人たちを知り、自分の無知に気付かされました。

この貴重な経験を伝えていくことはもちろん、支部は、新たな組合員を積極的に送り出し、多くの人に現地を感じてきてもらいたいとの気持ちです。

大阪支部ホームページ開設！

<http://www.zenkowan-osk.org/>

